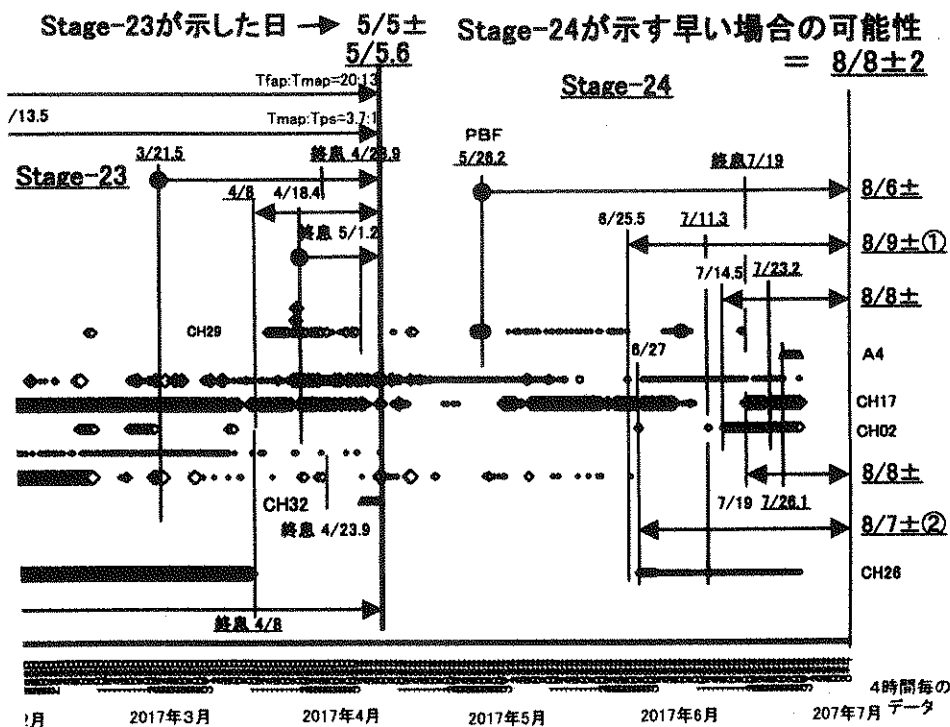
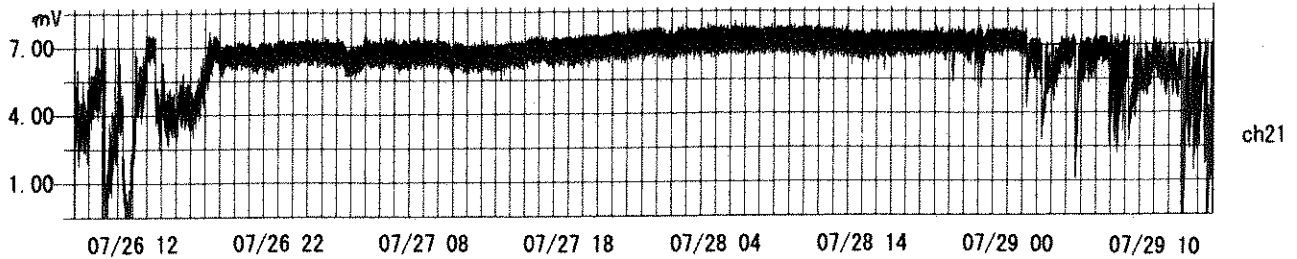


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆続報 CH21前兆再出現 8/8±を示す可能性有



No.1778長期継続特殊前兆の第24ステージからは、7/27±, 8/1±, 8/7±の3種の時期を示す可能性が示唆され、前兆終息時期によって決定できる可能性を報告致しました。7/27, 7/28の観測情報で報告のとおり、前兆は継続のため、当然7/27±は否定されCH21が7/26.7に静穏化したため、8/1±の可能性は否定できない状況でした。

しかし、上波形CH21基線のとおり、7/26に静穏化し通常基線を記録していましたが本日7/29未明から再び特異前兆が出現し、現在も継続しています。いずれかの極大に対する静穏化後に再び短時間前兆が再出現する直前特異の可能性も検討致しましたが、どの極大にも調和しないため、CH21は完全静穏化しておらず、まだ前兆期間中である見解となりました。

このことから8/1±の可能性は否定されることとなり、前兆を見直し、左図中に記した様に8/8±が示される可能性となりました。仮に8/8の場合で、最終極大が7/26の場合は、静穏化時期は8/5±となります。今後の前兆変化を観測し、続報予定です。

過去に8月中に大型地震が発生したケースは少ないため、8/7時点で前兆継続の場合は9月以降となる可能性も否定できません。今後の前兆変化に注意して観測を続けます。

8/9±①は7/11.3極大に対し6/25.5初現とした場合。 8/7±②は6/27初現とした場合

- ◆推定領域：右図 点線領域内=大枠推定領域  
大線領域内=可能性高い推定  
斜線領域=火山近傍の可能性を示すデータより参考推定域  
(A領域: 御嶽山・乗鞍等領域の方が考え易い)
- ◆推定規模：M7.8±0.5 震源浅い地殻地震  
(地震活動に関連して火山が噴火の可能性も有)
- ◆推定時期：前兆完全終息を観測後計算推定予定  
※現状考え易い早い場合=8月8日±2  
※但し8月7日時点で前兆継続の場合は発生時期のみ修正。再検討の必要有。
- ◇推定発生時刻：午前9時±1時間 または  
午後6時±3時間  
(観測された日々のBト変化時刻より)

7/26±否定情報その他、CH21静穏化、秋田観測点A4特異等の観測情報はE-mailとFAXで日々配信している地震前兆検知観測情報では報告しておりますが、HPの続報では前兆完全終息観測後に続報としていたことから報告しておりませんでした。日々の情報とは別に続報を作成することも考えましたが、秋田観測点メンテナンスの後、高知観測点のメンテナンスを前夜発日帰りで車で出張する等多忙でした。お許し下さい。

